

# 日本のお金にはどんな歴史があるの？

## 日本銀行券の発行開始

日本銀行が誕生して3年後に紙幣が発行されました。この「最初の日本銀行券」(十円券)は銀貨10枚とかえることができました。紙幣の表に「銀貨と引きかえる」という意味の文字が書かれ、基本のお金となる銀貨10枚と同じ価値であることを示していました。

また、紙幣は福の神の大黒天(だいこくてん)の図案が使われていたので、「大黒札」と呼ばれており、拡大部分は「この券で銀貨10圓(えん)と交換できる」と書かれていました。またこの大黒札(だいこくさつ)は、ニセサツを防ぐ工夫もされていました。

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

上：日本銀行兌換銀券(にっぽんぎんこうだかんぎんけん)  
(大黒札十円券)(1885年)  
下：一円銀貨(1885年) 銀製(品位90%)



## 金貨と交換できる紙幣

日本はアメリカやヨーロッパの国にならって、金貨をもとに交換するしくみを取り入れ、明治30年(1897)に法律をつくり、新しい紙幣をつくりました。「金貨と引きかえる」という意味の文字をいれ、「銀」の文字をなくしました。明治32年(1899)には戦争の特別な時をのぞいて、日本銀行が発行する日本銀行券という紙幣だけにまとめられました。

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

昭和17年(1942)施行の日本銀行法に基づいて発行された日本銀行券

